

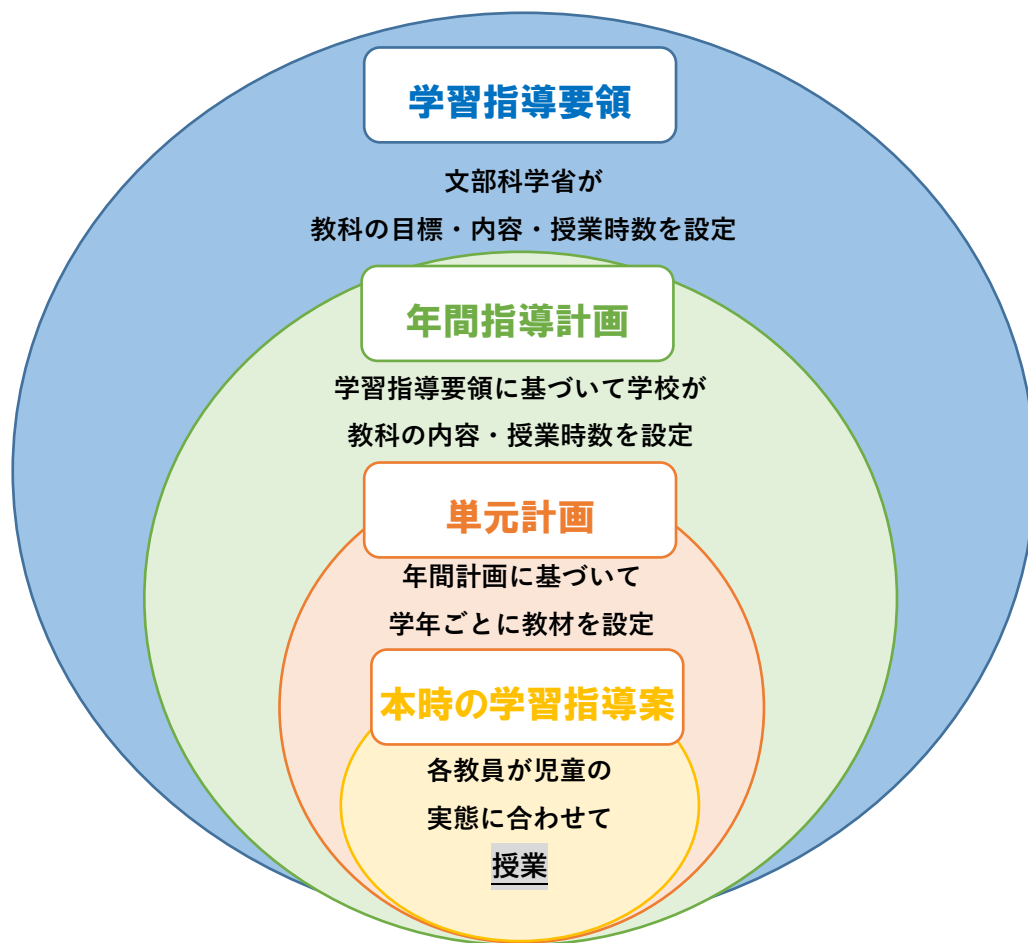
～はじめに、社会で活躍する皆さんに、学校へ力を貸していただく上で知っておいて欲しいこと～

学校での授業は、どのように作られているのでしょうか？

目標は、児童・生徒が教科書の問題を解けるようになればよいのでしょうか？いえ、残念ながら違います。
内容や時間数は、各教員が好きな内容を好きなだけ教えているのでしょうか？いえ、やはりこれも違います。

学校での授業は、教員の考えのみで作られるものではなく、文部科学省が示す学習指導要領に基づいて実施されています。学習指導要領は、**どの地域でも基準どおりの教育が受けられる**よう定められた、一種の法律です。

学校の教員は、「学習指導要領」を基に、児童・生徒それぞれの実態に合わせて「年間指導計画」→「単元計画（教材や学習のまとまり）」→「本時の学習指導案（1時間ずつの進め方）」と順に作成し、授業を行っています。



最後に作成する本時の学習指導案は、1時間（45分）の**授業の流れを具体的に表した計画案**です。

学習指導案では、まず「**45分で児童に何を身に付けさせたいか**」という**目標を設定**します。

目標を設定できたら、その達成のために必要な児童・生徒の学習活動の積み重ねを決めていきます。

そして、学習活動の場面ごとに「どのような言葉がけや手だてが必要か？」や「その場面での小さな目標は？」と考え、ポイントとなる場面では、評価を行うために活動している児童・生徒を観察します。

このように、学校の授業は「学習指導要領という大枠を踏まえた学習指導案」の作成を通じて作られています。

社会で活躍する皆さんには、**学校の教員たちが児童・生徒の実態を毎日観察して考えた年間指導計画や単元計画を尊重**し、しかしその一部、**例えば4～8分くらいの学習活動（意外と長く感じます！）で皆さんだからこそ伝えられる内容を盛り込み、児童に刺激を与え**ながら力を貸していただきたいと思います。

次に、学習指導要領において、体育科の「内容」がどのように規定されているか確認しましょう。

小学校の体育科は、「運動領域」と「保健領域」から構成されています。

「運動領域」では、基本的な動きや技能を身に付け、運動を豊かに実践していくための基礎を培う観点から、**発達の段階に応じて、指導内容を体系化**しています。

具体的な体育科の内容構成は次のとおりです。

< 小学校における体育科の内容構成 > ※ () 内は指導内容の一例

1・2年（低学年）	3・4年（中学年）	5・6年（高学年）
体づくり運動系		
体づくりの運動遊び 体のバランスをとる運動遊び 体を移動する運動遊び	体づくり運動 体のバランスをとる運動 体を移動する運動	体づくり運動 体の柔らかさを高めるための運動 巧みな動きを高めるための運動
器械運動系		
器械・器具を使つての運動遊び 前転がり、後転がり、ブリッジ 鉄棒ぶら下がり、ジャングルジム遊び 馬跳び、タイヤ跳び	器械運動 前転・後転（マット運動） 前回り下り（鉄棒運動） 開脚跳び（跳び箱運動）	器械運動 補助倒立前転（マット運動） 前方支持回転（鉄棒運動） かかえ込み跳び（跳び箱運動）
陸上運動系		
走・跳の運動遊び 30～40m程度のかげっこ 低い障害物を用いてのリレー遊び 幅跳び遊び	走・跳の運動 30～50m程度のかげっこ 色々なリズムでの小型ハードル走 短い助走からの幅跳び	陸上運動 40～60m程度の短距離走 40～50m程度のハードル走 リズミカルな助走からの走り幅跳び
水泳運動系		
水遊び 水につかって鬼遊び 水中でのにらめっこ くらげ浮き	水泳運動 け伸び、初歩的な泳ぎ 簡単な浮き沈み 背浮き	水泳運動 20～50m程度のクロール 10～20秒程度の背浮き 25～50m程度の平泳ぎ
ボール運動系		
ゲーム ボールけり、的当て 鬼遊び	ゲーム ゴール型ゲーム ネット型ゲーム ベースボール型ゲーム	ボール運動 ゴール型 ネット型 ベースボール型
表現運動系		
表現リズム遊び 特徴が捉えやすい題材の表現 弾んで踊れるような軽快なリズム	表現運動 身近な生活からの題材の表現 軽快なテンポやビートの強いリズム	表現運動 多様な題材の表現 フォークダンス
保健領域		
—	保健 身近な生活について理解する 体の発育・発達について理解する	保健 心の発達及び不安や悩みへの対処 けがの防止や病気の予防の理解

それでは、ある学習指導案を見て、実際の授業の流れを確認しましょう。

今回取り上げるのは、小学校3年生の「器械運動」のうち「マット運動」の単元です。

単元計画としては全6時間の予定で、そのうちの2時間目を取り上げます。

	1	2	3	4	5	6
ねらい (例)	単元の見通しをもつことができる。 基本的な技のポイントを理解することができる。	自分の課題に合った練習に取り組むことができる。 (前転)	自分の課題に合った練習に取り組むことができる。 (後転)	自分の課題に合った練習に取り組むことができる。 (倒立技)	自分の力にあった技を練習の場や方法を選んで練習することができる。	できるようになった技を、一つ以上入れた組み合わせ技に挑戦しよう。

< 本時の学習指導案 >

主なねらい・学習活動	教師の働きかけ(□評価)	準備物
1 場の準備 2 集合・整列・挨拶 3 学習課題の確認 4 準備運動 5 基礎感覚を養うための運動をする。	○友達と協力しながら、安全に気を付けて準備をするように促す。 ○めあてをもって取り組むように声をかける。 ○各部位を意識しながら動かすように声をかける。 B 準備運動後に、次の学習課題につながるような段階的な活動(スモールステップの活動)を行う。 ※ 児童にとって簡単な動き(楽しく・簡単・一緒にもっとやりたい)から活動始める	・掲示物(場の設定)・学習カード ・掲示物(めあて)
6 自分の課題を見付ける。 ① 基本の動き確認の場 ② 坂道がある場 ③ 頭抜き場の場 ④ 足裏着地の場 ⑤ 繰り返し回れる場 ⑥ 開脚前転の場 ⑦ 大きな前転の場	○児童が自分の課題に気付けるよう、様々な場(着手、回転、着地など)の設定を行う。 ○技のポイントやアドバイスカードの掲示をする。 ○児童に対して、一つの場所にとどまらず、①から④までのそれぞれの場に挑戦してみるよう促す。⑤から⑦までの場は、発展的な場として設定する。 ○それぞれの場で児童自身の動きを確認できるようにする(動画撮影、見本の動画との見比べなど)。	・手形、足形 ・掲示物(技のポイント) ・アドバイスカード ・一人一台端末 ・ボード、大型テレビ
7 自分に合った場を選び課題に取り組む。	○児童の課題に合った場に移動させ、課題に取り組むよう促す。 □自分の課題に合った場を選び、練習に取り組んでいる。	
8 振り返りをする。	○できるようになったことや友達のよいところなどについて取り上げて価値付けをする。	
9 整理運動をする。	○運動で特に使ったところを意識して整理運動ができるようにする。	
10 片付けをする。		